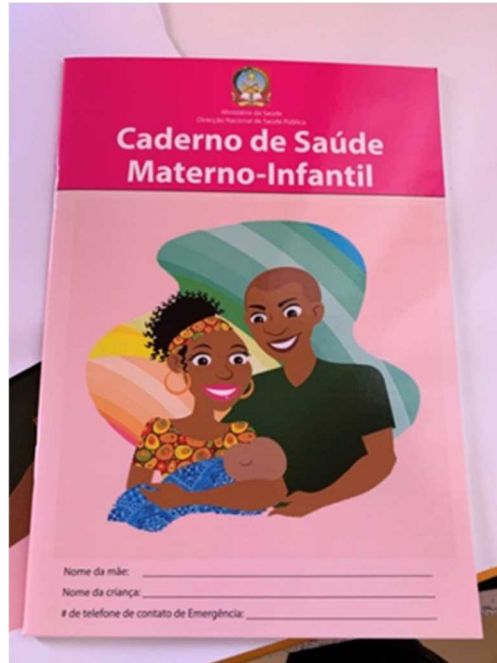


母子健康手帳

在アンゴラ日本国大使館



2016年5月、日本政府は、アンゴラ政府の要請により、日本の母子健康手帳の経験と知見を活かした母子健康手帳の普及の定着支援及び母子健康手帳を使用する医療従事者の能力強化を図ることを目的とした「母子健康手帳を通じた母子保健サービス向上プロジェクト」を開始しました。

アンゴラの妊産婦死亡率（世界ワースト23位、CIA World Factbook 2017）と5歳未満児死亡率（世界ワースト17位、UNICEF 2016）は、長年にわたり世界の中で高い国の一つです。その高い死亡率の大きな理由は、母子保健サービスの利用率が低いことが関係しています。

現在、アンゴラ政府が掲げる「母子健康手帳の全国展開」を目標に、日本人専門家が、カウンターパートたちと共に、アンゴラの母子保健サービスの向上のために活動しています。

1 「母子健康手帳は母親に対する保健施設への招待状」

本プロジェクトでは、「モニタリング&スーパービジョン（M&S）体制の構築」の一環として、国家公衆衛生局・州保健局・市保健局・日本人専門家でチームを組み、各市の全保健施設を対象に手帳の運用状況等を調査し、M&Sを通して州や市のスーパービジョン能力の向上のための活動を行っています。時には、悪路のために車で行けない場所もあり、川を渡り歩いて保健施設を訪問することもあります。

ベンゲラ州のA市では、2018年11月に保健施設のスタッフを対象に、手帳の使用に関する研修を実施し保健施設での手帳の導入を開始しました。手帳を導入してから3カ月後、日本人専門家がM&Sのために再びA市を訪れたところ、A市の保健局長から、「母子健康手帳は母親に対する保健施設への招待状」という言葉がありました。カラフルできれいなイラストがたくさん入った新しい手帳をもらうために、保健施設に産前健診に訪れる母親の数が昨年よりも1.5倍程度に増えています。手帳が母親たちの産前健診受診の触媒役となっている証です。

2 「産まれてくる子どもにメッセージを残したい」

母子健康手帳には、家族写真を貼るスペースや子どもへのメッセージを書くページがあります。都市部では、スマートフォンの普及により携帯でも写真を撮ることができますが、地方の農村地帯では、写真の撮影や現像はなかなかできません。また、識字率の低さから文字を書けない母親がたくさんいます。そのような環境の中でも、子どもに自分たちの写真やメッセージを残したいと、写真を貼るスペースには、両親の証明写真を貼り、親戚の文字の書ける人に頼んで産まれてくる子どもへの愛の言葉をつづったメッセージを書いて残している光景が見られます。母子健康手帳を通して、子どもへの愛を伝えたい母親・父親の行動がとてもほほえましいです。

3 「妊娠について家族と話すきっかけに。父親も子育てを」

アンゴラの母子健康手帳は、文字を読めない人にも配慮し、イラストを多く使用しています。妊娠中の禁止事項（重い物を持たない、タバコを吸わない等）についてもイラストで示しています。産前健診に訪れた母親からは、「妊娠中にはしてはいけないことについて家族と話すことができた」といった声も聞かれます。

また、「子育ては母親がするもの」という傾向があるため、父親の育児への参加率は高くありません。母子健康手帳の表紙には、両親が子どもを抱いているイラストが記されており、父親の育児参加の重要性が説かれています。アンゴラの実情にあわせて工夫したイラストや文章、更に、研修を受けた保健スタッフの声かけにより、保健施設には以前よ

りも父親の姿を見ることが多くなってきました。

母子健康手帳を活用した地道な啓蒙を通じて、より多くの母と子がともに健やかに、そして家族がより多くの笑顔で過ごせるようになってもらえたらと願っています。

